国舎源氏 二十七

へ13
3742
27

東都手習師匠番付

俳諧芳野集 全二冊 岡板

俳諧叢雲集 全二冊 近刻

俳諧全四歌仙 全一冊 岡板

東都手習師匠番付

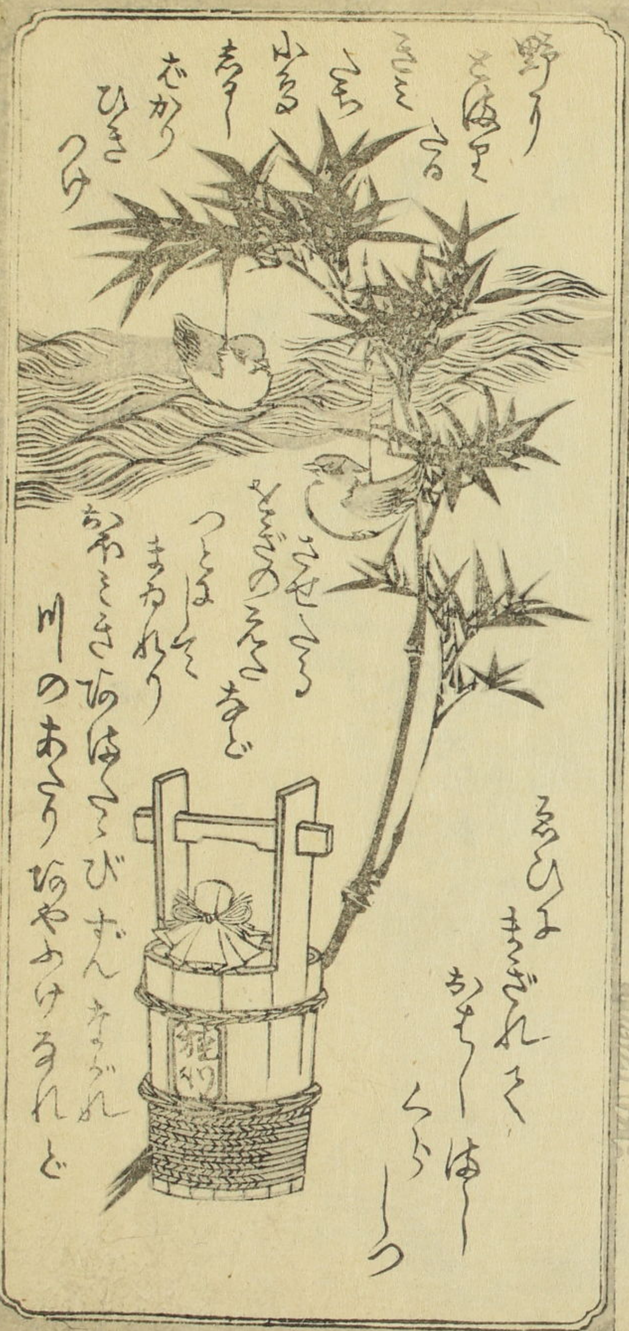
俳諧 今人俳合集 全四冊 新刻板

俳諧 今人叢句集 全二冊 来酉年早春出板

書肆

江戸通油町

仙鶴堂 鶴屋喜右衛門蔵

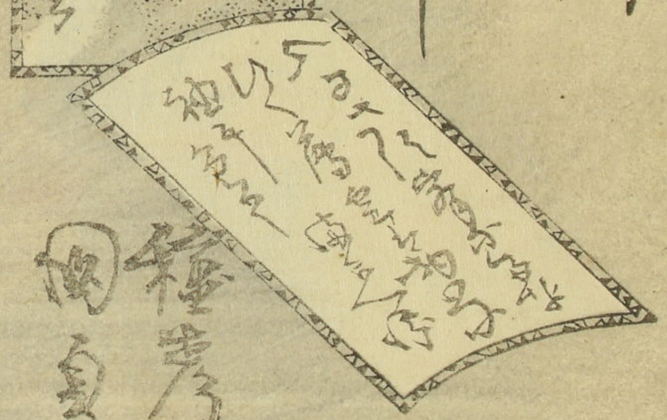

野ゝ
ささ
ゆる
ゆる
ゆる
ゆる
だかり
ひき
つけ
ささ
ささ
ささの
つゝ
まわれり
ゆるゝ
川のあ
ゆはゝ
びんぢ
ぢん
ぢん
ぢん

九七編上

九七編下

門へ13
號3742
卷27

第廿七編
下冊



連歌よ名ぶろき宗祇ハ源氏を愛るのあまり讀てゐる不足ぞとて書寫まる事数十部遂ふ朝顔の巻を書さ〜く没しりとろれと見てゐる事かたれど原素ものたろうき草雙子のさまでよ長くちゐ

東京大学蔵

続まの朝夕のあろよ至らぶあろあきうふたろるんと其事をもうよ云くあて阿古木の憲ふ結びあるさ〜が既よ彼巻ちくあり

東京大学蔵

けんまぶあるよ松風の松ふから出朝夕よ似氣るれぞもその發端と見ふ繪ゆいれるる薄雲とうち載て齊院の典形をろうさんとその仕業あり如ぶ世ぎれば後るよあるで言葉の回島がうるさ〜そもく夕顔の別奥の名ハ及對よゆ〜ものれば類向も又齊くく遠輪廻史似くれぞもうの黄昏ハ光氏を思ふのあまり無常とちり菊咲ハ又憲とうけぞ釋とあるの句作りハ抑のかちりて後よ紀さん

天保戊戌條風

柳亭種彦

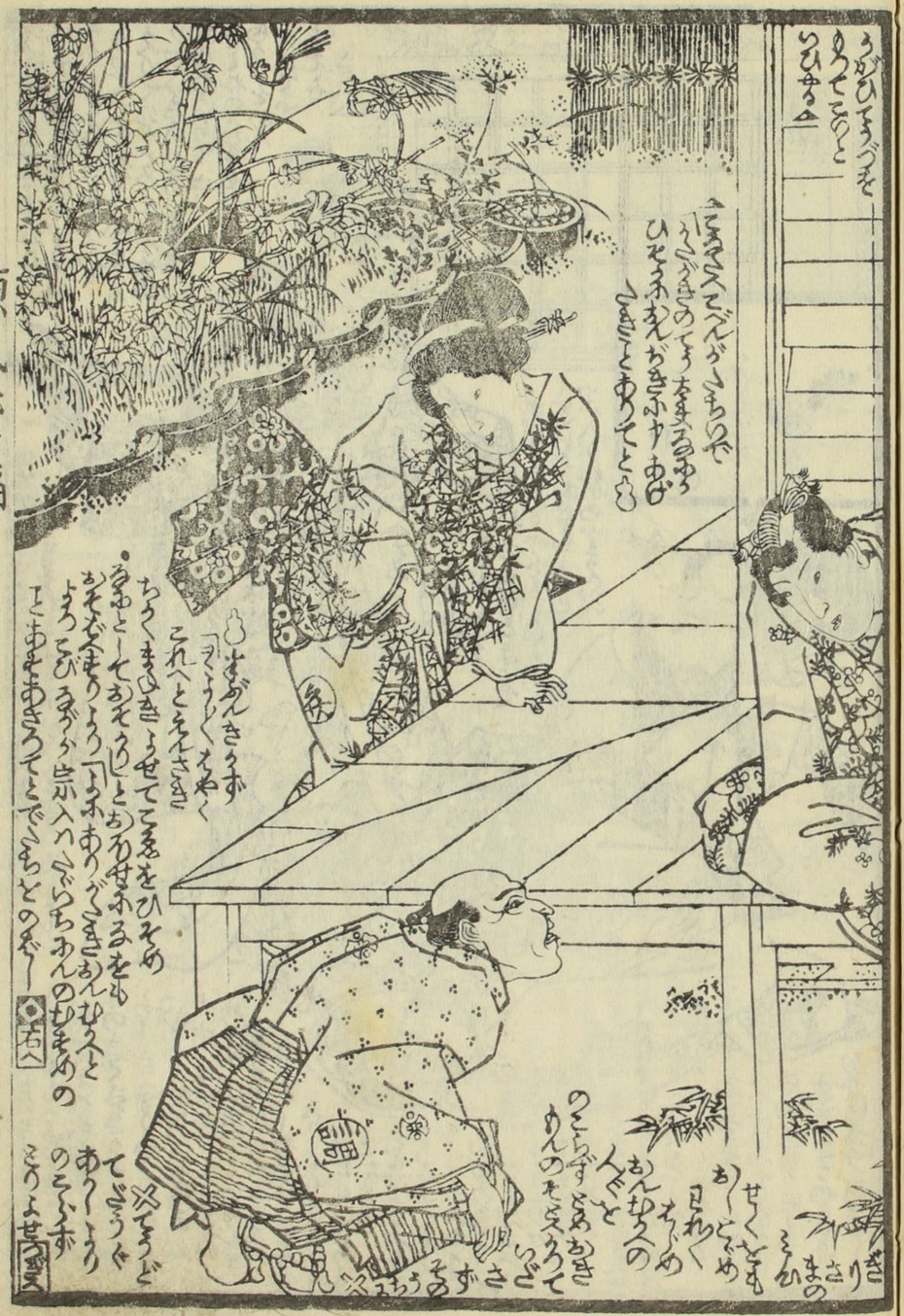
ひさかたの
ひろみ
ちるき
えのこ
しそ

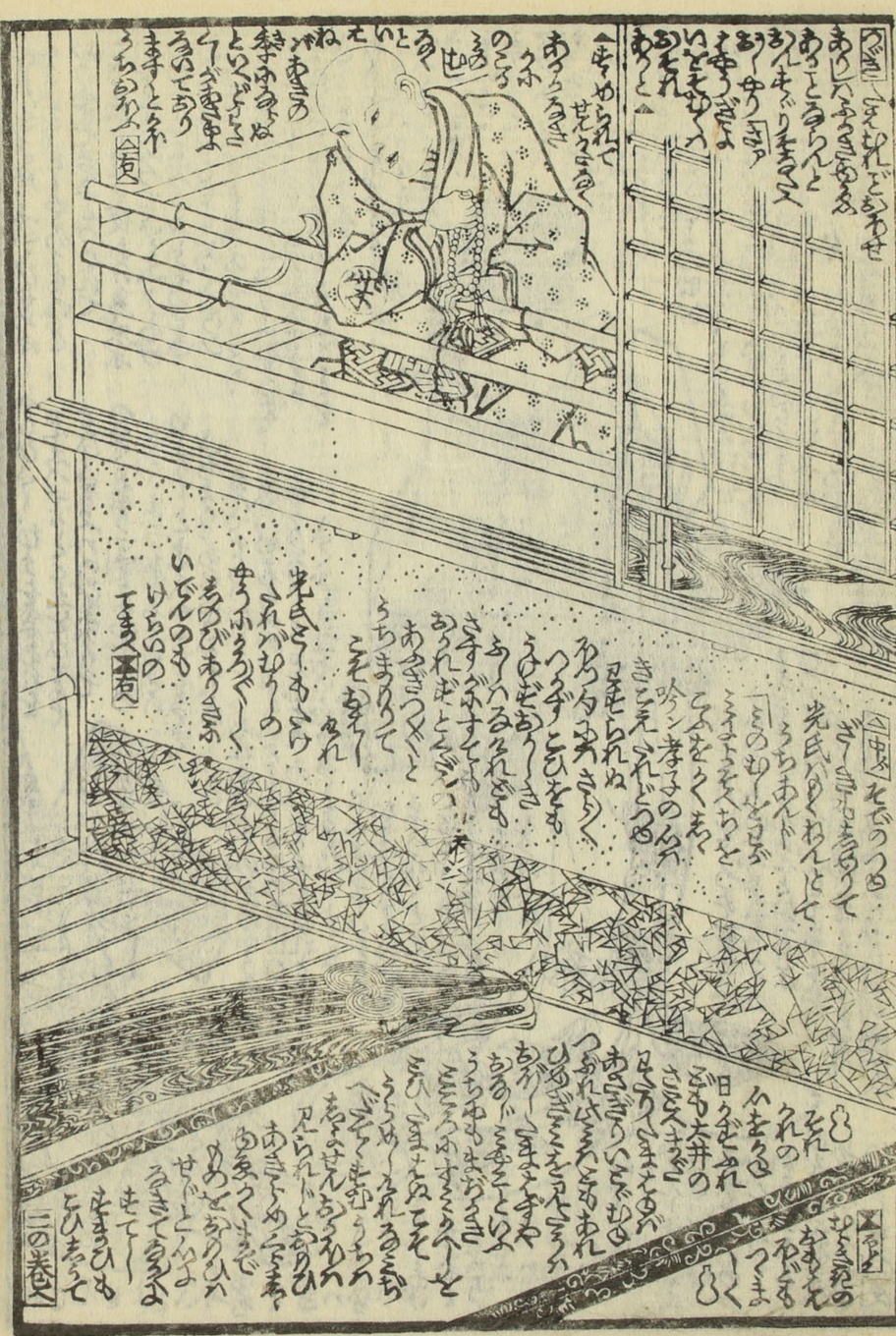
あさぢふのうも
れぬ宮

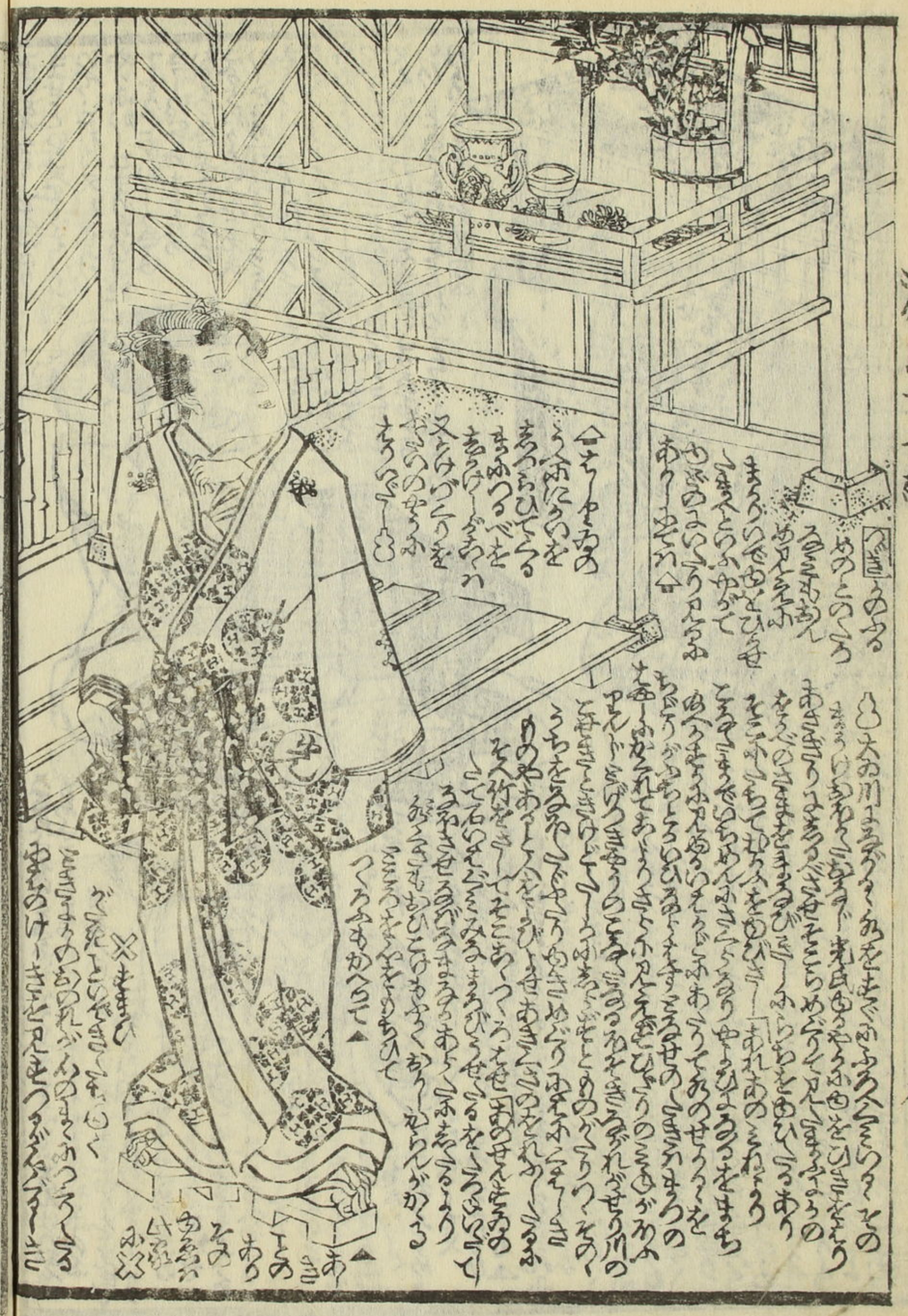
仁木の後室
空衣

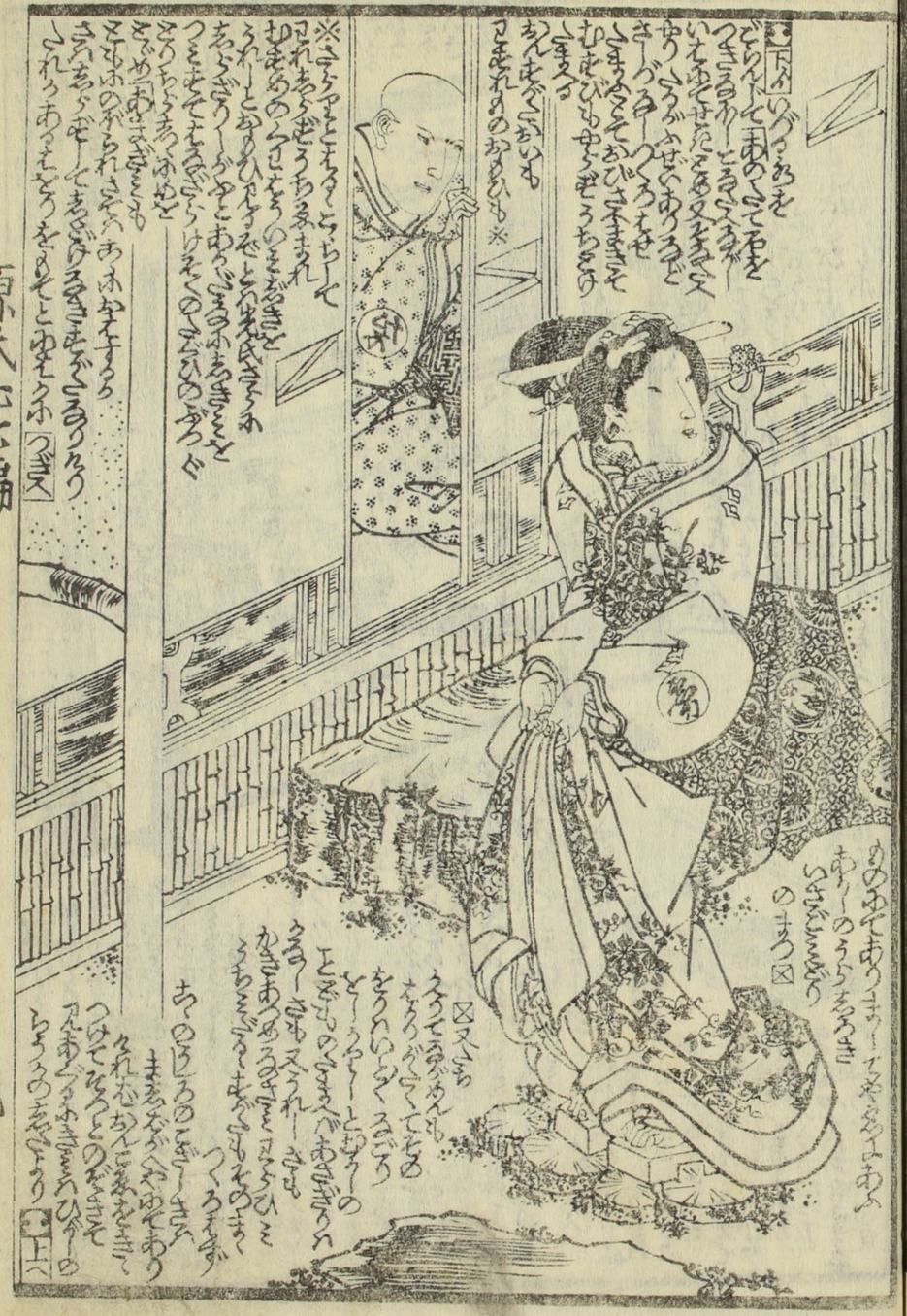
うき
雲ふ
たゝ
まろび
ぬ
彩の
すゝ
ぢろ
ぢろ
のさけかゝへる

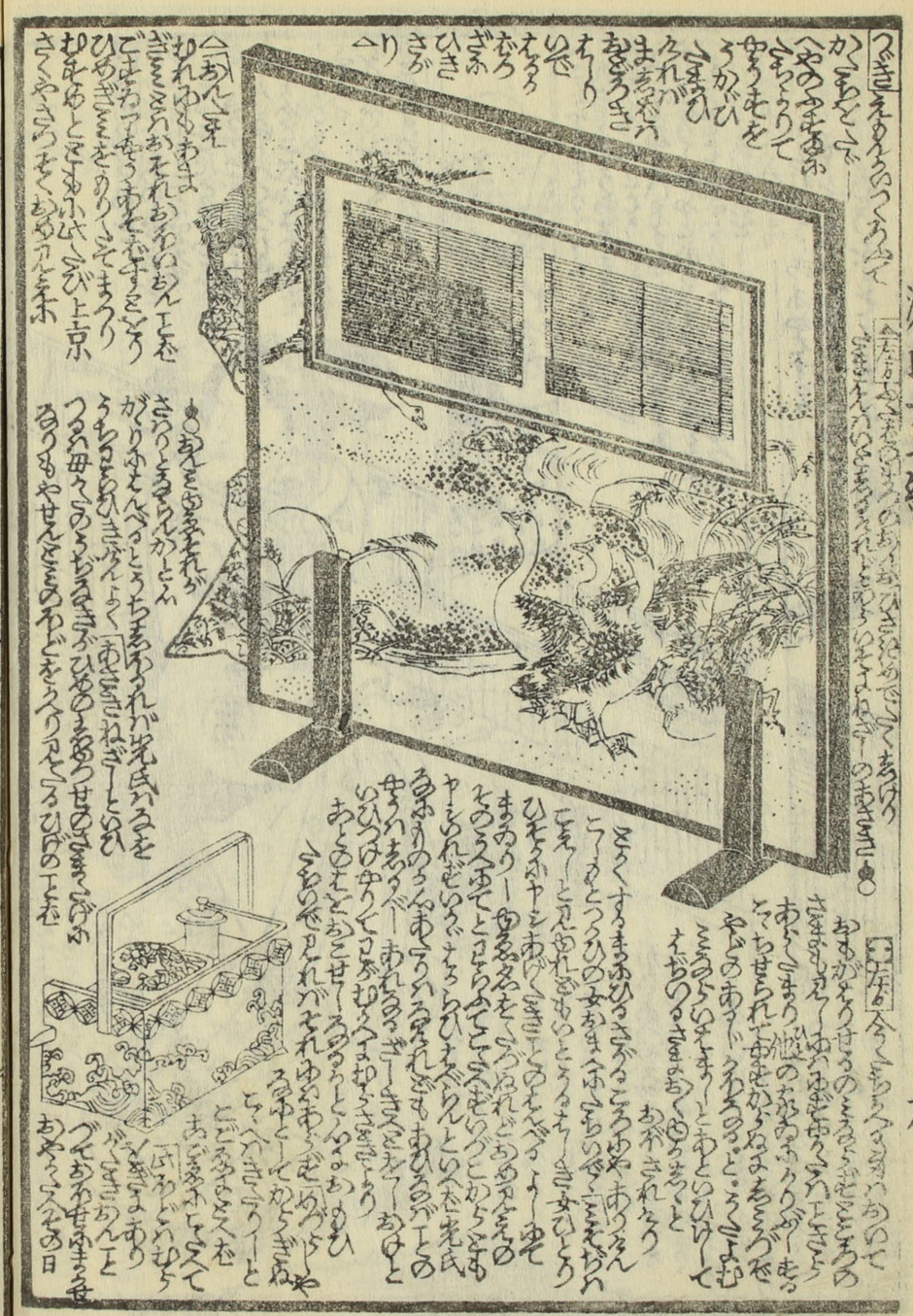
萩



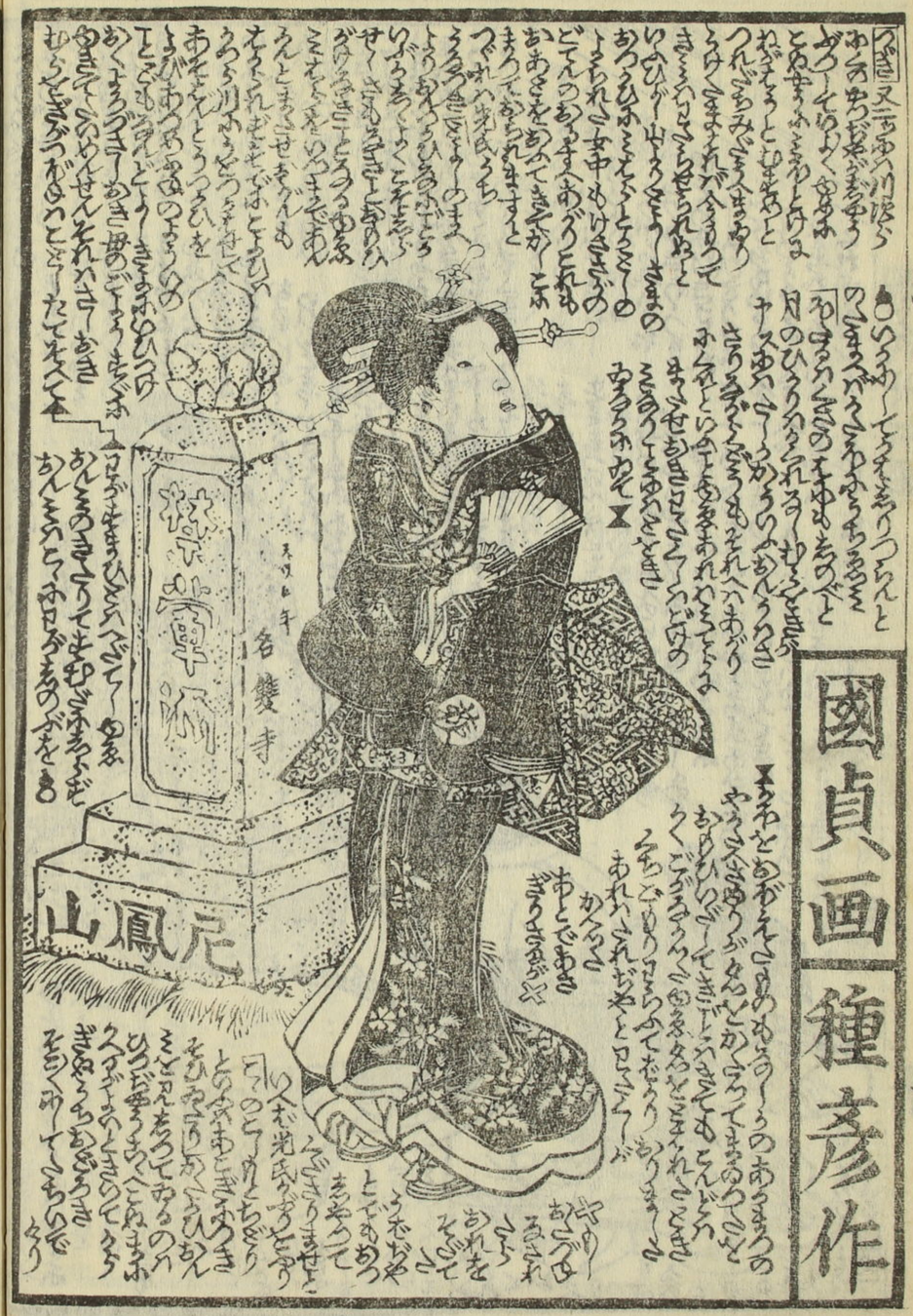


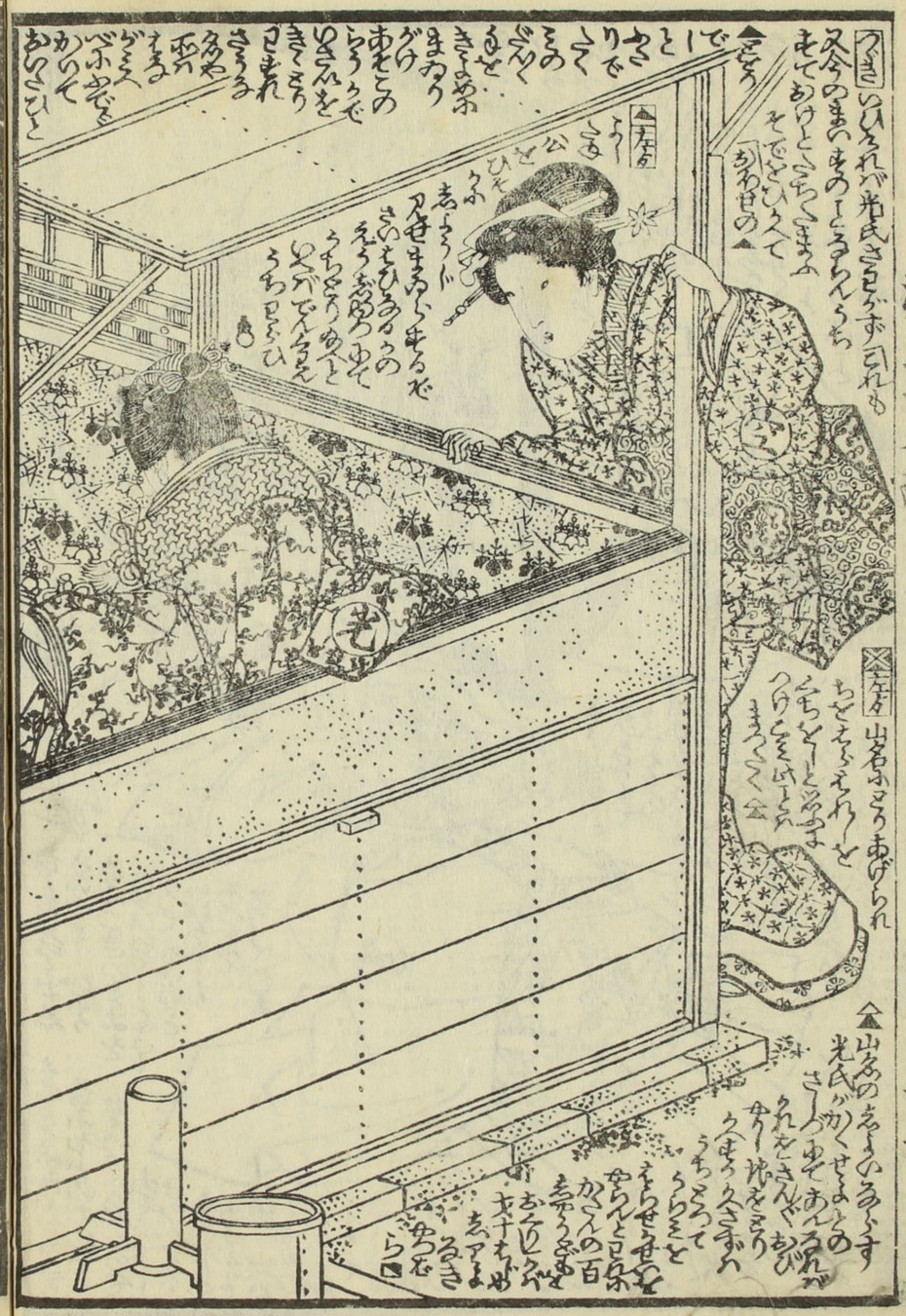


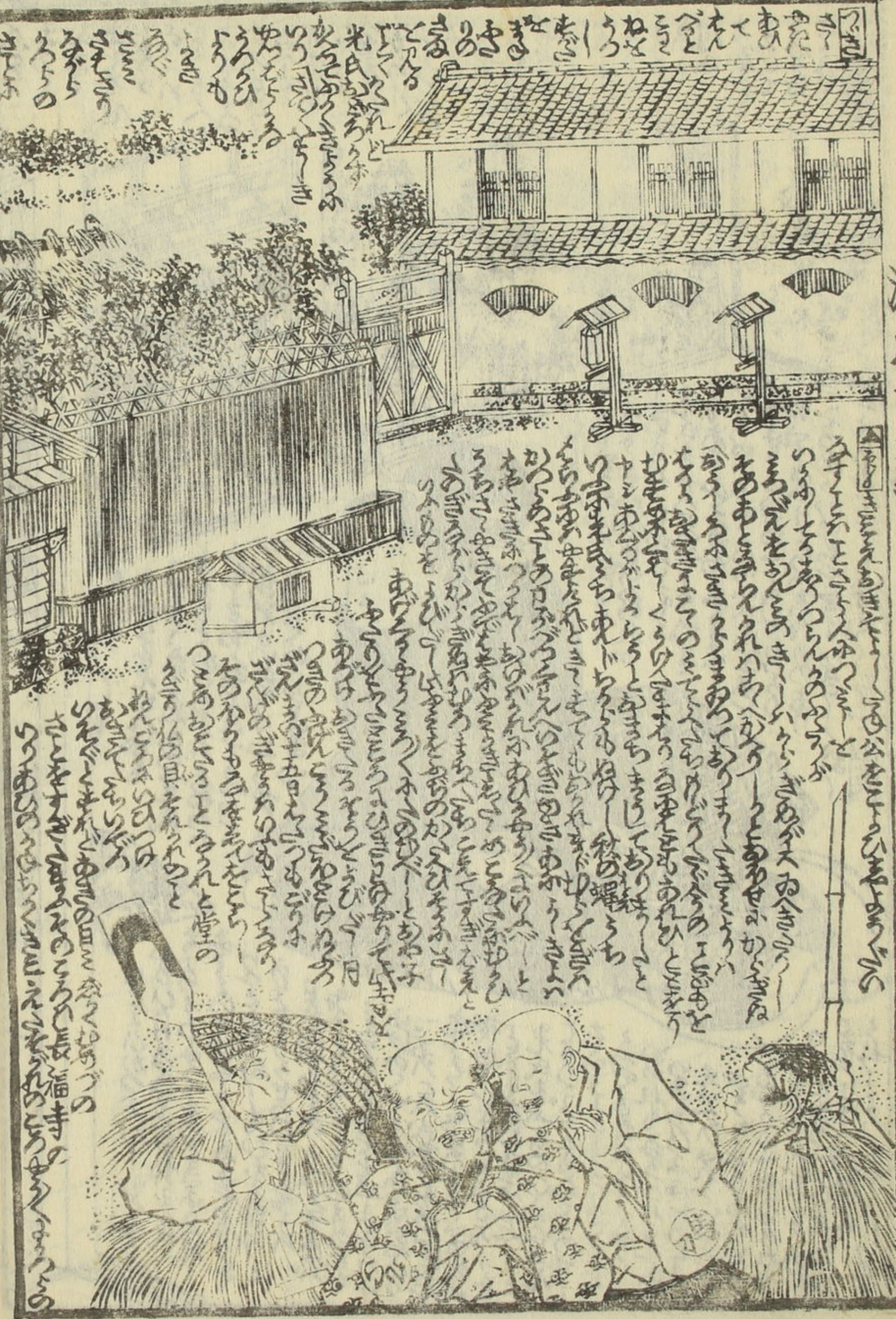


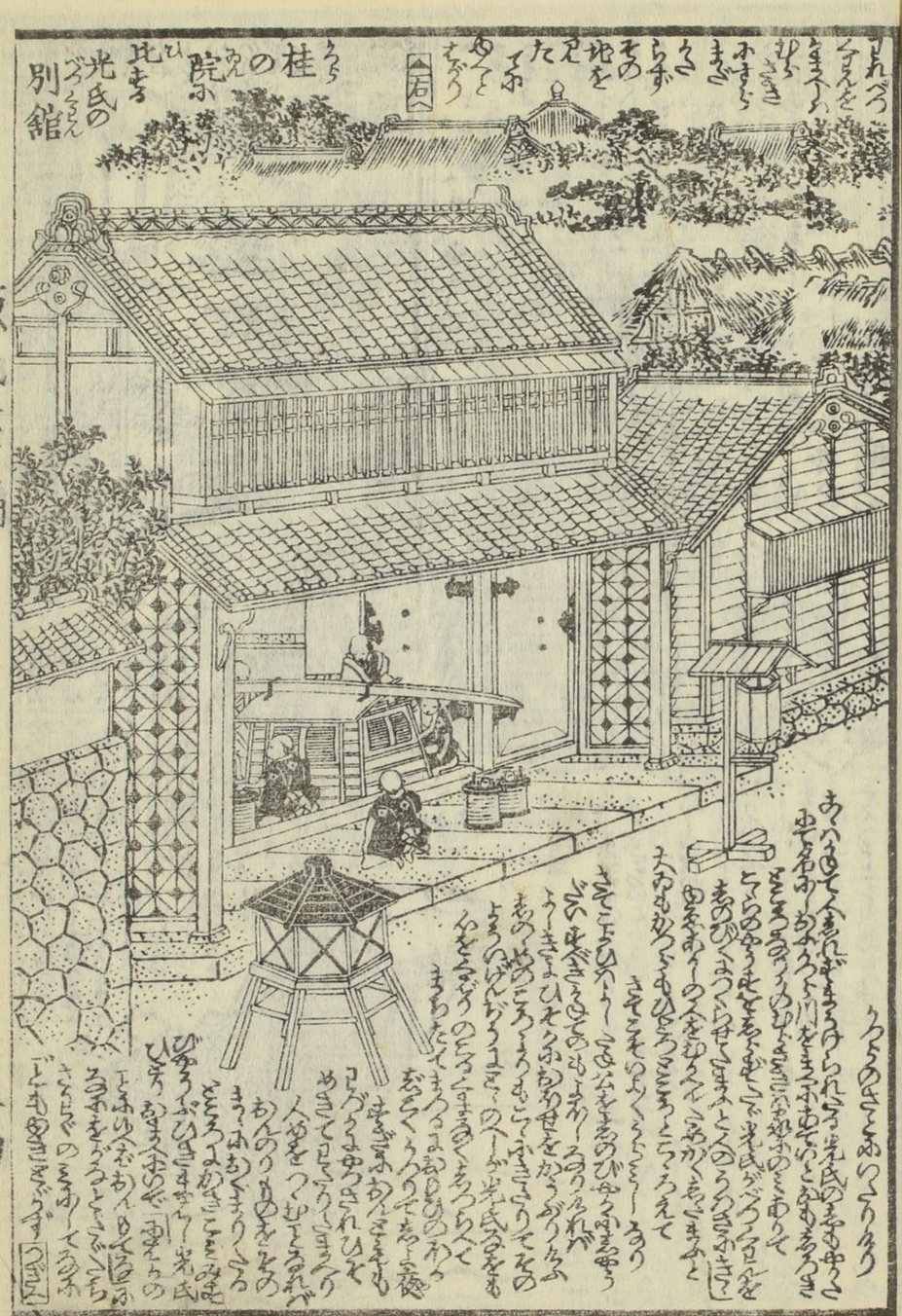


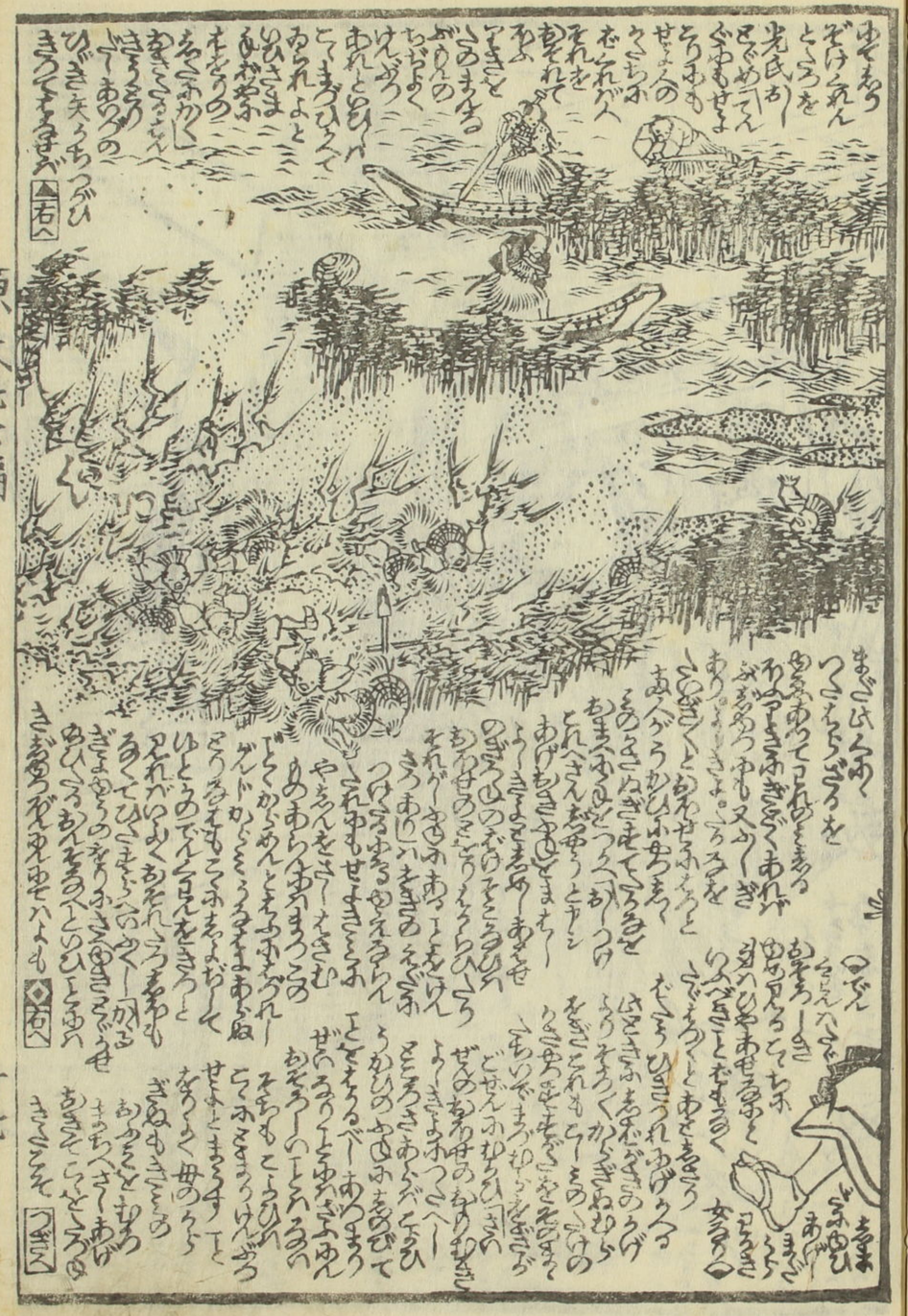
國貞画 種彦作





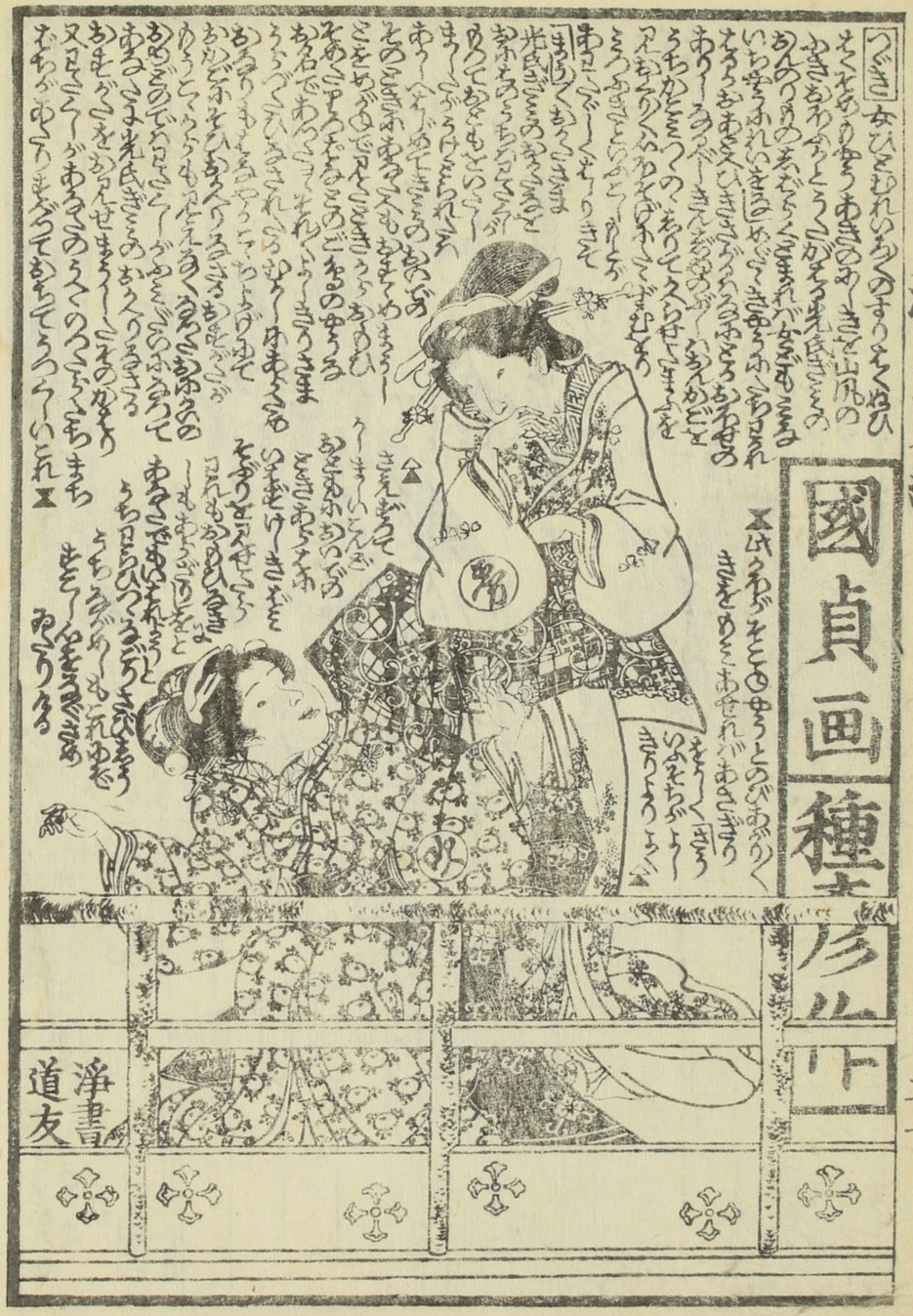



光氏の桂の院の別館



南傳馬町三丁目
坂本氏

國貞画 種彦作



天保九年戊戌初春新彫

修紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

当年九五編より三十編まで毎月出板おかたり仕候条御愛顧願上奉候

佐野渡死敵懸橋　柳亭仙橋作　全六冊　五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開　柳亭種彦原案　河竹主人作　全四冊　五雲亭貞秀画

復讐國字茶話文庫　丹頂斉鶴丸作　全四冊　五雲亭貞秀画

松浦ゆかりの藤浪　柳亭徳升作　全八冊　歌川貞秀画

金花貓婆化生舗　大海舎金龍作　全六冊　五雲亭貞秀画

昔咄火焚だゝア　二冊　昔咄きちゝ丸　三冊　茶番のいろは　二冊　昔話浦島郎　三冊

四季の美容　美艶仙女香　黒油美女香　南傳馬町三丁目西側　坂本氏製表　四十八銅

書物錦繪　團扇地紙　問屋　江戸通油町　鶴屋喜右衛門